ネバーエンディングストーリー

第2章

V・E・ハークセン　木村育世＝訳

竹書房文庫

江苏工业学院图书馆
藏书章

ーエンディングストーリー

第2章

V・C・ハークセン
木村育世＝訳

竹書房文庫

THE NEVER ENDING STORY II™

THE NEXT CHAPTER

WARNER BROS. Presents
A DIETER GEISSLER Production
"THE NEVERENDING STORY II: THE NEXT CHAPTER"
JONATHAN BRANDIS KENNY MORRISON CLARISSA BURT
Music by ROBERT FOLK
Edited by PETER HOLLYWOOD and CHRIS BLUNDEN
Director of Photography DAVE CONNELL Screenplay by KARIN HOWARD
Executive Producer TIM HAMPTON *Produced by* DIETER GEISSLER
Directed by GEORGE MILLER

TM & © 1990 Warner Bros. Inc.

目次

1 バスチアンはヒーローじゃない……9
2 コレアンダー氏を訪ねる……27
3 銀の町……43
4 密約の船……67
5 アトレーユ、そして毒竜……81
6 フッフールとの再会……107
7 バスチアンはいずこへ……117

试读结束：需要全本请在线购买： www.er

8 勇猛果敢なヴァムボーたち……131
9 神秘の魔女、クサイーデ……159
10 ステキなクソビール……177
11 姿を隠すベルト……189
12 アウリーンをめぐる決闘……221
13 ニムブリー、決心する……237
14 バスチアンの最後の願い……251
訳者あとがき……280

ネバーエンディング・ストーリー［第2章］

《登場人物紹介》

バスチアン ……読書好きの13歳の少年
バーニー……バスチアンの父親
コレアンダー……古書店の主人
アトレーユ ……ファンタージエンに住む草原の戦士
無邪気な女王さま……象牙の塔に住むファンタージエンの女王さま
ブッフール ……幸運の竜
岩喰い……巨大な岩の塊で、岩を食べて生きている
クサイーデ……ホローク城で陰謀を企む魔女
ニムブリー……クサイーデのスパイの鳥人
三面人……クサイーデ専属のブレイン、魔術師

1

バスチアンはヒーローじゃない

バスチアン・バルタザール・ブックスにとって、スポーツはむかむかするほどいやなものだった。第一に、他のヤツはみんな彼よりずっと上手だったし、第二に、彼はいつでも速く、うまく、果敢にというわけにいかなかったし、しかも――第三に、格好よく決めるなど、彼にはとうてい無理な話だったのだ。

つまり、バスチアンはただお父さんのためだけに、ここに来ていた。お母さんは一年前に亡くなり、彼は母の死を長らく克服できなかった。そのために彼は内気で、いささか臆病な少年になったのである。彼は引っこみ思案で、クラスのみんなに取り立てて人気があるわけでもなかった。

父親である技師のバーニー・バクスター・ブックスと彼は、アメリカ西海岸の大都市にあるステキな家で暮らしていた。日々の暮らしの中で、バスチアンはお父さんが彼に何を望んでいるか、はっきりわかっていた。強くて、スポーツ好きで、ガッツがあって、愉快で、くよくよなどしない息子が、お父さんは欲しかったのだ。その上、バスチアンは友達がいなくて、サッカーよりも本のほうが好きで、〝一人でいるのが好きな少年〟で通っているのが、父親には気に入らなかった。

バスチアンはお父さんが好きだった。だが、お母さんがいなくなったことで、彼はたいそう寂しい思いをしていた。お母さんが亡くなってから、父親と息子の間は

试读结束：需要全本请在线购买： www.er

なんとなくしっくりいかなくなっていたのである。時には、お父さんはもう自分のことなんか少しも期待していない、とバスチアンは本気で思った。だから、ただただお父さんを喜ばせたいというので、バスチアンは学校の水泳チームのメンバーに入れてもらおうと思ったのだ。ただただお父さんのために、彼は今日のトレーニングに参加したのだ。お父さんが彼のことを誇りに思ってくれるように！

この冬は寒さが厳しかった。外では風がうなり声をあげ、雨も降っていた。だが、大きくて明るいスイミング・ホールは暖かだった。男の子も女の子もわいわい騒ぎながら、水をばちゃばちゃかけ合っていた。

金髪で青い目のやせた十三歳の少年、バスチアンは黄色と白の縞柄の水泳パンツをはき、やっとの思いで水に入った。その途端、彼は、本当は泳げるんだけれども、やはり水を飲んでしまった。息つぎのために苦労して浮き上がった途端、女の子が一人、彼の横にまっすぐに飛び込んできた。それですっかり驚いたバスチアンは、また水を飲んでしまい、あわててプールの端まで泳ぎついた。

学校の水泳のコーチはいい体格をした陽気な若い男性で、候補者たちをじっと見ていた。

「さあ、誰がチームに入りたいのかな？」

彼がたずねると、子どもたちは歓声をあげた。みんな腕を高くあげ、高い声で叫んだ。
「ぼく」
「わたし」
「絶対ぼく」
「もちろん、わたしよ」
「ぼくが一番」
バスチアンも名乗りをあげた。
コーチは女の子と男の子をプールのまわりに一列に並ばせた。彼らの水泳の力量と、それにどれくらい勇気があるのか、試してみるつもりなのだ。だから、まず最初に五メートルの高さの飛び込み台からジャンプしてもらおうというわけだ。
「さあ、君たちの腕を見せてもらおう」
コーチはみんなにハッパをかけ、先頭の少年を指さした。
「まず君からだ」
眉毛一つ動かさずに、この少年は飛び込み台のところへ行き、梯子(はしご)をのぼって、飛びこんだ。バスチアンの目は、飛び込み台に釘付けになった。ゴクンと唾を飲み

GOLDEN

込んで、彼は思った――飛び込み台は何て高いんだろう、威嚇するようにそびえている、だめだ、あそこから飛び込むなんて、とても無理だ。

バスチアンは、できることなら目立たないようにそっと逃げ出したくなった。彼は他の少年に先をゆずろうとしてみたが、うまくいかない。まわりの少年たちがくすくす笑っている。コーチは、もうとっくに気づいている。この少年の性格がわかっているのだ。

「さあ、今度は君だ」

コーチが彼に指示を与えた。びっくりしたバスチアンは、しぶしぶ歩き出す。

「びくびくするな」

コーチが勇気づける。

足をこわばらせて、バスチアンは飛び込み台に近づき、鉛のように重い足で梯子をのぼる。まるで飛び込み台から巨大な滝が流れ落ちるような音で、耳鳴りがしている。ごうごうと耳をつんざくばかりで、バスチアンの歯が、がたがた鳴り始める。ああ、だめだ、引き返すしかない。だが、それにも勇気がいる。彼の後に続いて、もう何人か梯子(はしご)をのぼり始めている。バスチアンは目を閉じて、のぼり続けた。上について、彼はおぼつかない足どりで前へ進む。下にいる者が冷やかし声をあげ、

板は前に飛びこんだ者の重みで、まだブルブルしなっている。ついに、バスチアンは目をあけて下を見た。だが、そこにはプールがなかったのだ！

まわりの壁は険しい岩壁に変わり、彼の足もとには深い淵が口をあけて、ごうごうと音を立てる巨大な流れを飲み込んでいた。白い泡がほとんど足先に触れそうなくらいに飛び散っている。だめだ、ここから飛び込むなんて、誰にもできやしない！

コーチの堪忍袋の緒が切れた。何て臆病な奴だ、惜しいな、と彼は考えた。大声でコーチが呼びかける。

「おおい、眠りこむなよ、バスチアン！　さあ、思いきって飛びこめ！」

だが、バスチアンにはできない。麻痺したように、彼はコーチや他の馬鹿にしたように、あるいは同情して見上げている子どもたちを見つめている。滝は消えたが、淵は依然としてそこにある。飛びこんで死ぬくらいなら、恥をかいても生き延びるほうがいい。

いいさ、誰も信じてくれなくなったって、ぼくはヒーローじゃないもの――彼はこむらがえりを起こしたふりをして、足をひきずりながら、梯子をおりてきた。

「どうしたんだ？」

とコーチがたずねる。

「足がつったんです」
バスチアンの答えはほとんど説得力がない。他の子どもたちが肘をつつき合い、またくすくす笑っている。
バスチアンは、もう一度プールを見た。すべて普段と同じだ。彼にはわけがわからない。コーチは彼に非難のまなざしを向けて言った。
「なあ、君には勇気が足りないんだよ。少しはしゃんとしろよ！」
しかし、バスチアンはすっかりやる気をなくしていた。自分の持ち物を抱え、服を着て、彼は家へ帰った。

帰り道、バスチアンは、どうして飛べなかったのか、くよくよ考えていた。他の少年たちが淵など見なかったことはわかっているし、どうして彼にだけ見えたのか——もっとも、初めてのことだったが——わからなかった。それに、お父さんが何て言うだろう？　だが、ひとまずお腹が空いた。
家につくと、彼は大きな居心地のいい台所に腰をおちつけた。以前はお母さんが

试读结束：需要全本请在线购买： www.er